

クレジット:

UTokyo Online Education 東京大学朝日講座 2019 田中 淳

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限って、特に記載のない限り、クリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下で利用することができます。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

第10回 災害とつながり —社会関係の中で生きる人間像—

災害という大きな環境変化は、

- ・社会関係を損ない、
- ・新たな社会関係を生み出していく。

災害からみた人間のつながりを
考えてみたい。



災害から見たつながり

- 災害とは、「つながり」を生み出すとともに、「つながり」を分断もする。
 - 災害は、どのような「つながり」を分断するのか。
 - 災害のどのような側面がその分断をもたらすのか。
 - 日常の「つながり」に示唆されることは何か。

自己紹介

- 東京大学文学部社会心理学科
- 東京大学大学院社会学系研究科
- 民間のシンクタンク～群馬大学～文教大学
- 2000年：東洋大学
- 2008年：東京大学大学院

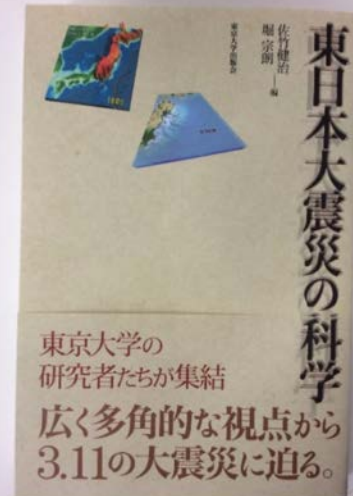
情報学環・学際情報学府

社会心理学をバックボーンに
避難行動や防災行動の実際と意思決定を
実証的に研究。



田中淳、土屋淳二『集合行動の社会心理学』
北樹出版 2003年

佐竹健治、堀宗朗編『東日本大震災の科学』
東京大学出版会 2012年



令和元年台風19号(千曲川:長野市穂保)



令和元年台風19号(阿武隈川:丸森町五福谷)



令和元年台風19号(多摩川:田園調布)



東日本大震災(南三陸町)



東日本大震災(福島第1原子力発電所)



新潟県中越地震(旧山古志村)



大学の防災



東京大学 地震研究所
Earthquake Research Institute

この予測震度

0

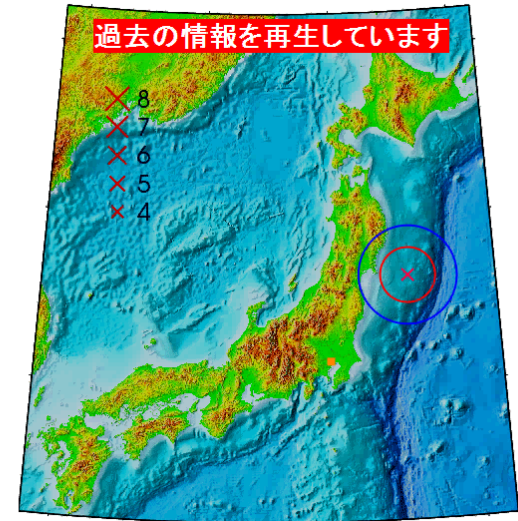
主要動到達まであと

70秒

現在時間	2011/3/11 14:46:45 0
地震ID	20110311144640-001
発震/トリガー時刻	110311144619
経度/緯度	142.7 E / 38.2 N
深さ	010 km
マグニチュード	4.3
震央地名	

ARVi=2.280 R=380.119 I=-0.5587

東京大学地震研究所地震火山情報センター
<http://www.eic.eri.u-tokyo.ac.jp/eew/ncplay.html>

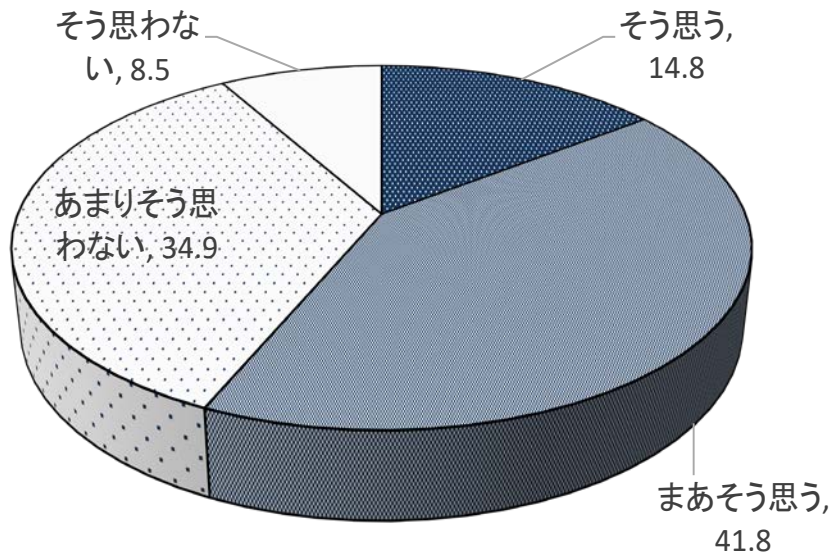


訓練の受信: OFF ☒ ON ☐ OFF 震度3未満 SOUND: ON ☒ ON ☐ OFF

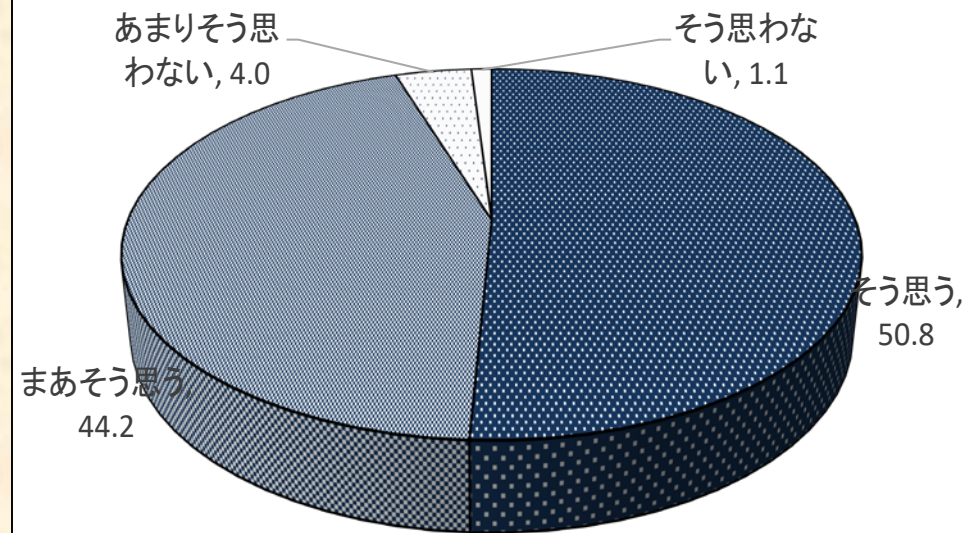


つながりの背景

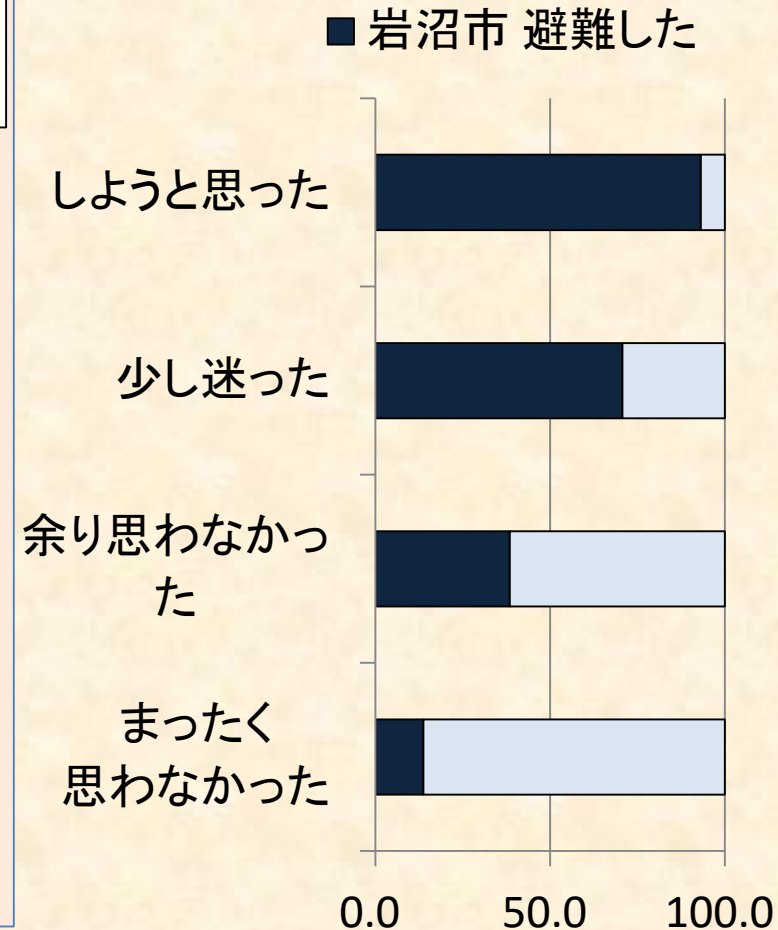
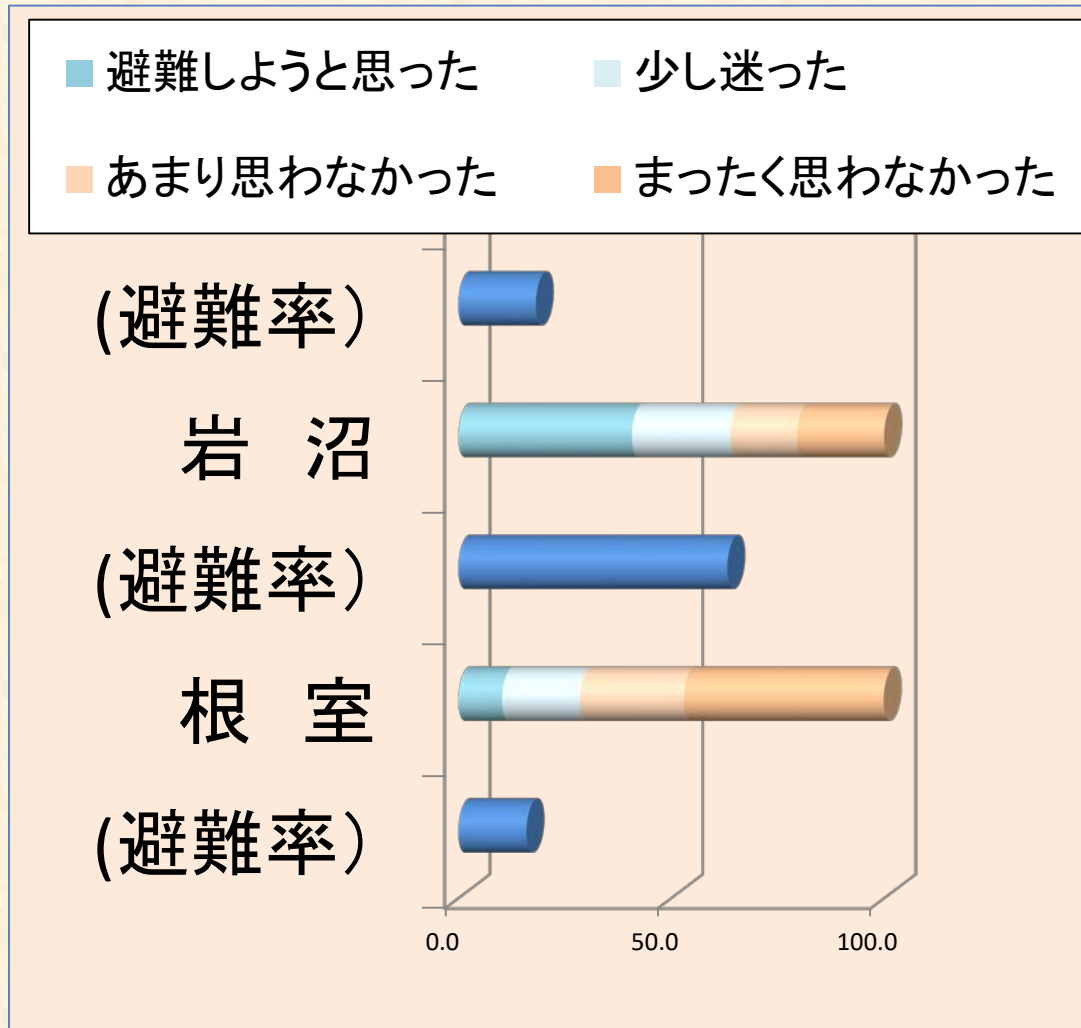
津波の後で自分より厳しい生活を送っている人がいることを思うと、罪悪感を感じることがある。



災害の時こそ、まちの人々が協力しあう必要がある。



チリ地震津波時の避難行動



岩沼市は、迷った人も避難している傾向

津波避難実態

直接避難型

地震後に直接避難場所に行った。
津波に巻き込まれた人は5%。
49%が津波来襲を意識。

用事後避難型

地震後に用事を済ませて避難。
津波に巻き込まれた人は7%。
自宅外が64%。

切迫避難型

津波が迫ってきってから避難。
津波に巻き込まれた人は49%。
30%が津波来襲を意識。

災害とは

• 災害対策基本法

第二条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

一 災害 暴風、竜巻、豪雨、豪雪、洪水、崖崩れ、土石流、高潮、地震、津波、噴火、地滑りその他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害をいう。

$$\text{Disaster} = \text{Hazard} \times \text{Vulnerability}$$

- ・自然の力が大きいほど、近くで発生するほど
- ・地形や建物、身体能力などが脆弱であるほど被害や影響の程度は強くなる。

災害による被害あるいは影響

(1) 臨床心理的視点: PTSD

- 実際にまたは危うく死ぬまたは重傷を負うような出来事を、
- または他人の身体の保全に迫る危険を
- 一度または数度、体験、あるいは目撃、遭遇した
- それに対する反応として、強い恐怖、無力感、戦慄

(2000、米精神医学会「診断マニュアル第IV版DSM-IV-TR」)

(2) 社会学的視点: 社会変動

- 期待される生活状況を社会システムから受けられなくなる集合的ストレス。

Barton(1963)など

- 「危機は、それまでかくされていたか地下に潜められていた現実(諸システム、ないしは諸過程の意味を告知するものである)」

エドガール・モラン 「オルレアンのうわさ」 杉山光信訳、みすず書房

PTSDの典型的症状

1) 外傷の再体験

= 外傷の不快な記憶の再生

繰り返される苦痛に満ちた悪夢と不眠

例) 飛行機に乗ると地震を思い出す／死んだ友人の夢を見る

2) 感覚鈍麻と回避反応

= 感覚が鈍くなったり、関係する場所や人、物を避ける

例) まるで夢を見ているよう／腕をつねってみる／
三宮に行きたくない

3) 覚醒水準の上昇による反応(過覚醒)

= 入眠障害・熟睡障害、神経過敏、怒りの爆発、
集中困難と記憶障害、安全に対する過度の関心

例) 子供が夜中に起きる／ちょっとした音で起きてしまう

3つの奪われるもの

(1)人の命

	神戸市(152万人)	東灘区
死者	0.3%	0.8%
就寝者	14.6%	31.7%
避難者	15.6%	34.4%

(2)家・家財

- 家は生活の基盤
- 結婚して嫁ぎ、
子供を育て、
孫を迎え、
親を看取り



(3)世界観

Just World 仮説

- 3つの仮定への脅威がPTSDをもたらす。

①世界は善なる場所であり、喜びの源泉。

良いことの方がたくさん起こるし、
善良な人の方が多い。

②世界は意味のある存在。

西欧世界では“justice”と“control”が重要。

justice: その人の(道徳的)性格による説明

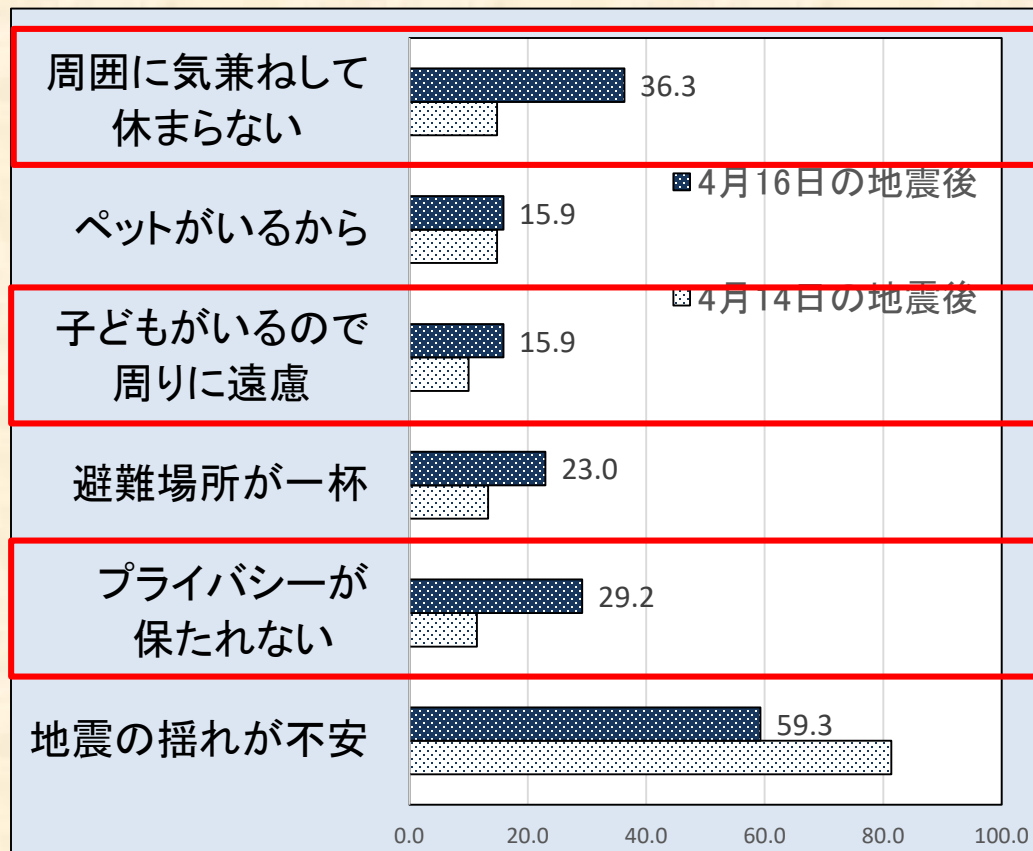
control: その人の以前の行動による説明

③自己は価値ある存在。

i.e. 愛すべき、善なる、能力ある

Janoff-Bulman(1985)

直接的被害だけではない



「扉はまさに開かれるものでもあるがゆえに、それがいったん閉じられると、この空間のかなたにあるもののすべてにたいして、たんなるのっぺりとした壁よりもいっそう強い遮断感を与える」

ジンメル 「橋と扉」
鈴木 直訳

車中泊をした理由

つながりの前提としての分断

他者との関係：ジンメル の視点

①他者(の全体像)をすべて理解できるわけではない

「人間とはそもそも他者について、『完全な知識をもつことが拒まれている』ことが前提」であり、「多かれ少なかれ『一般化されたカテゴリー』において他者を理解することが前提」。

②人間と人間の関係は絶えず社会的役割といった『カテゴリー』によってある制限を加えられたかたちで営まれる。

「他者とはかならず類型化されたかたちで認識されるものであり、しかもそのことは自分自身を他者に呈示する場合にも避けられないということである」(102頁)



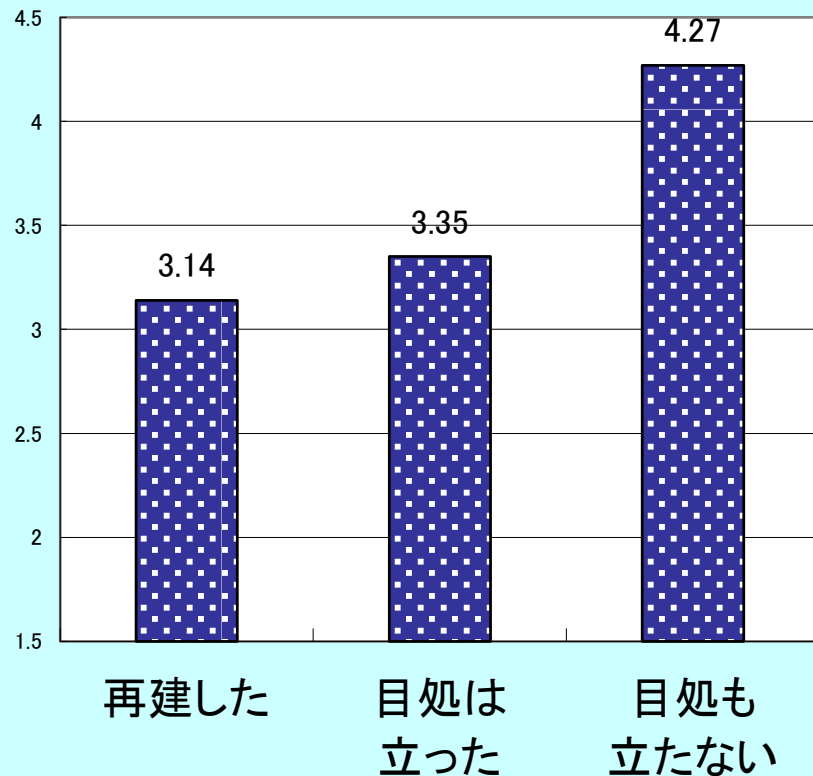
文学青年？ 高齢者

阿修羅像

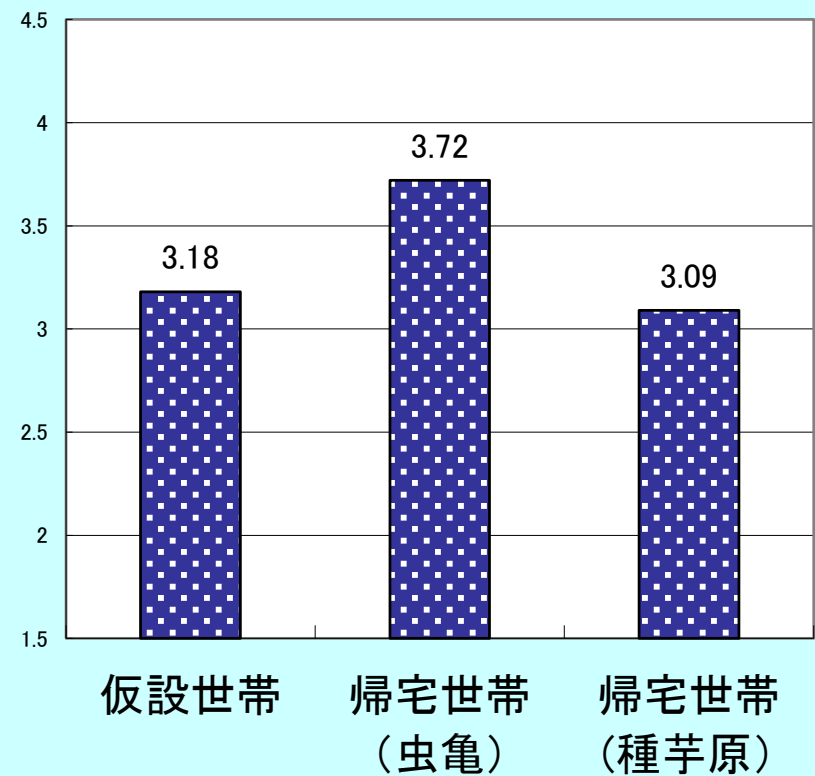
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:ASURA_Kohfukuji.jpg

菅野 仁(2003)、「ジンメル・つながりの哲学」、日本放送出版会

直接的被害だけではない



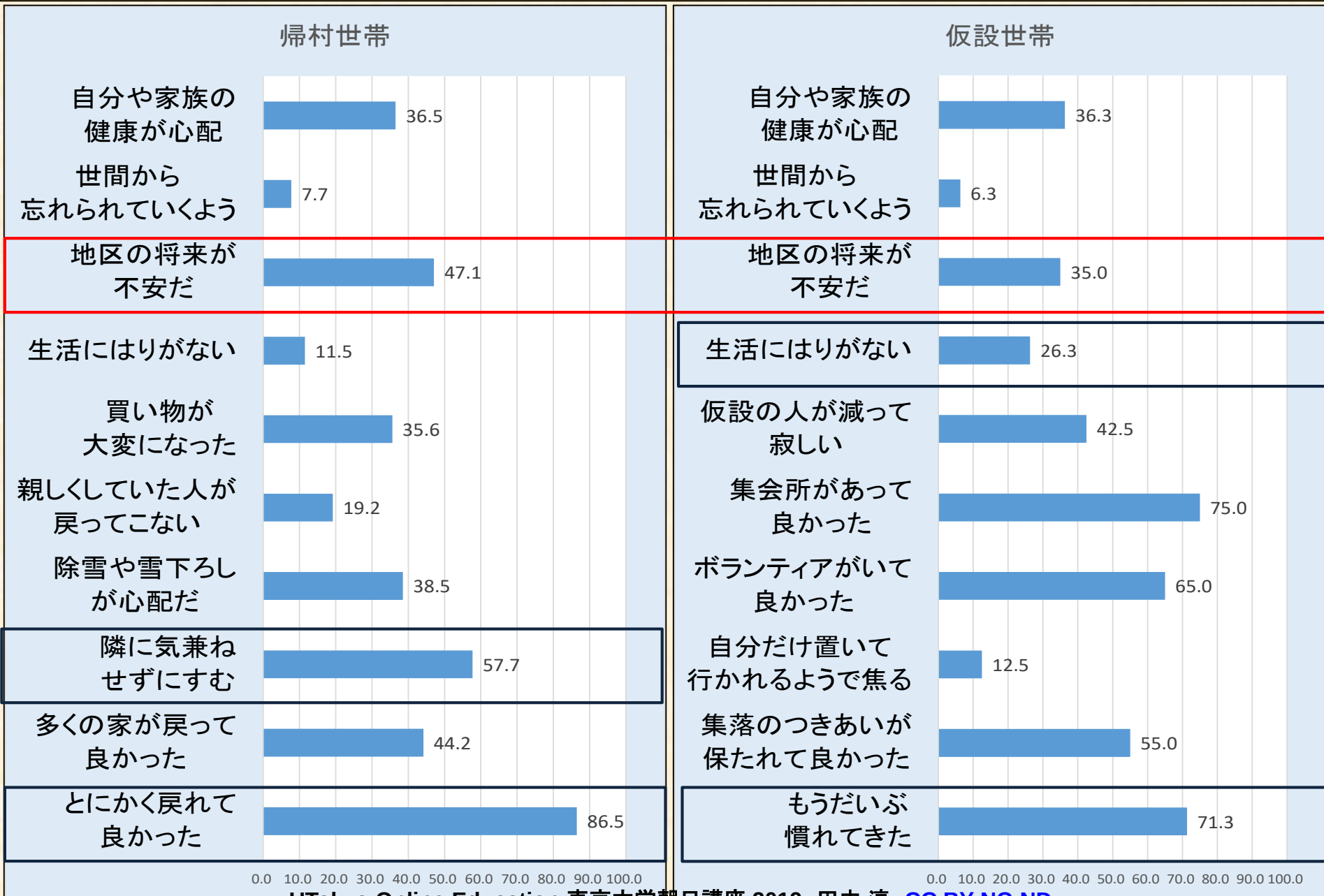
再建の見通しと
精神的健康状態



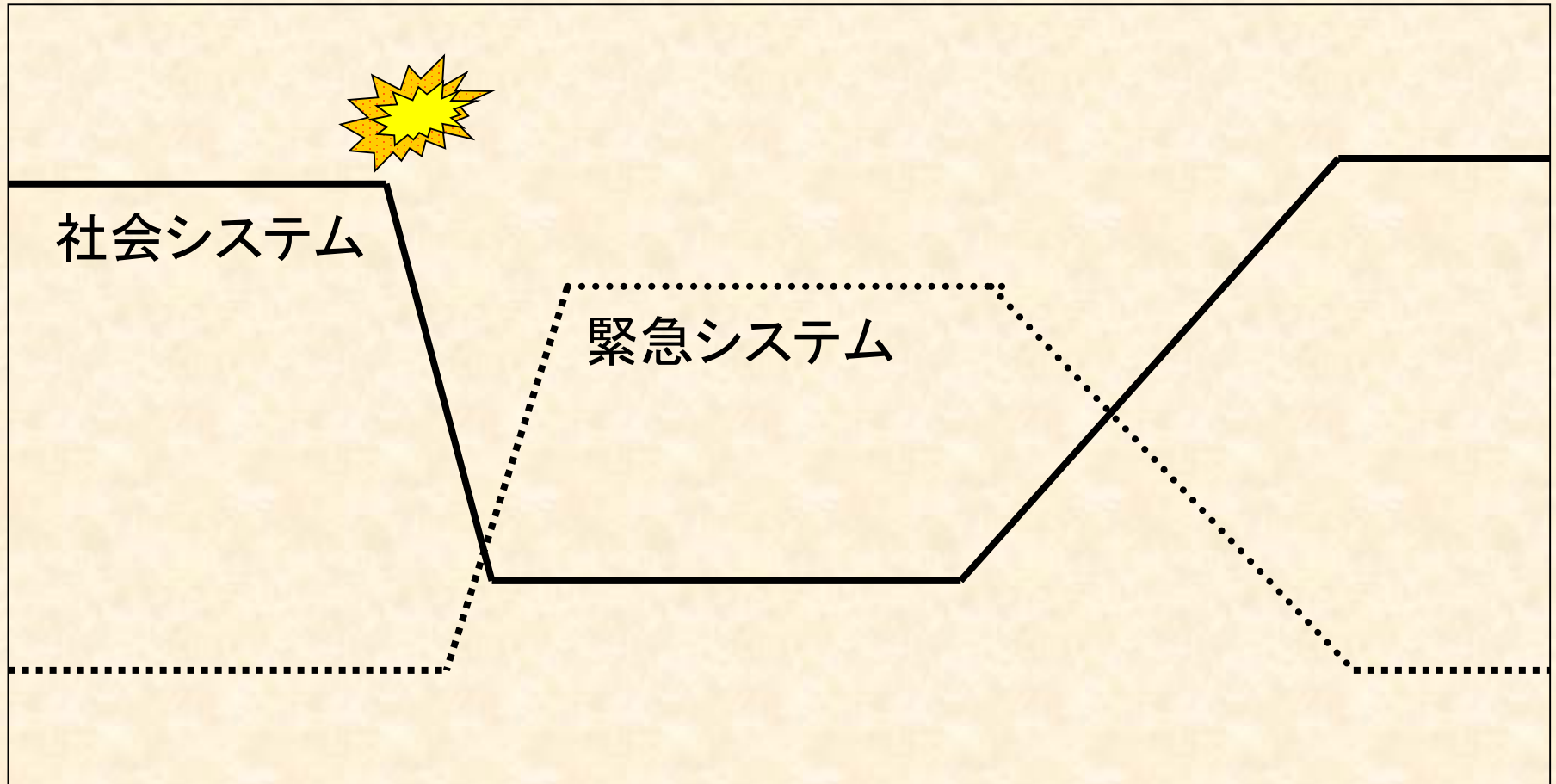
仮設と帰宅別の
精神的健康状態

長期の復興過程にも注目すべき

後戻りする現実



災害過程



- 通常システムの機能低下
e.g. 停電、断水
輻輳、渋滞
- 緊急システムの稼働による補完
e.g. 自家発、避難所、炊き出し
- 通常システムへの復帰
e.g. 仮設住宅
恒久住宅

災害社会学の系譜

①ハリファックス港爆発事故 (Prince, 1920) : 実証研究の先鞭

「カタストロフィと社会変化」(1920)

: 社会が一時的に崩壊し、復興していく様子

1917年: NYからフランスへ
食料船と衝突し、トリニロン
が爆発。港周辺で2000人死亡
住民は放心状態。救援も非組
織的

②ソローキンの飢餓研究: 理論研究の先鞭

「災害における人と社会」(1942)

全体主義的傾向へつながっていくとみる

⇒ いずれも長期的な社会変動に関心

社会構造の変化が生じ、
災害へと焦点付けられ、
他の価値は後退。
個人の権利の規制強化や
政府規制の強化を生む。

③戦時中の戦略爆撃研究 (シカゴ学派)

軍事研究と結びつく、パニック研究が端緒。

【シカゴ学派】パークやその後継者であるブルーマ

- ・都市問題へのアプローチ
- ・集合行動に積極的な社会的意味を見出し、社会学の領域へ
- ・社会秩序の動揺と新たな社会秩序への模索と創発の過程

震災の影響①—生活基盤

➤ 生活基盤を奪う:

災害は自宅という生活基盤と収入とを奪う。

- ・ 私は明治生まれの87才です。地震で家も何もなくなりました。今は仮設住宅で細々と暮らしています。
- ・ 自宅兼用で一人でお好み焼き屋をしていたが、全焼した。
- ・ 自宅は全壊。仕事場は助かったが倒産してしまった。

➤ 心身機能の低下:

負傷や心的影響といった心身状態の低下を伴う。

- ・ 地震後、病院のベッドの上で気がついた。左肩を柱が直撃、大腿部が骨盤から突き出ていた。現在も治療中で、働けない。
- ・ 震災以来、糖尿病で薬を飲んでいるが、アルバイトなので社会保険もなく国保の3割負担となる。病気の事は勤め先に言っていない…クビになると困るし…。

震災の影響②－社会関係

➤ 人間関係を損なう:

肉親を亡くした人の喪失感、支え合うはずの家族関係が気まずいものへとになってしまう事例も。

- ・ 震災で、母・息子をみんな亡くした。一人でいたら、何も考えずボーっとするだけ。誰か来てくれたら何を話したらいいか判らない。1からしゃべらなければいけない。母のことをしゃべらなければいけない。それが辛い。
- ・ 震災以降、親子、兄弟が不仲になったとよく聞くが、私のところもそうだった。でも、自分にはそうなった心当たりがまったくない。

➤ コミュニティの崩壊:

復興格差の中で、孤独感を募らせ、自尊心をも失っていく。

- ・ 公営住宅へ友人が転出していき、「孤独死」を身近なこととして感じてしまう日がある。
- ・ 自分が生きとつても死んどつても、誰も喜び悲しみもせえへんと思うから酒に溺れる様になってしまうんや。
- ・ 自分は何もできない。お世話になるだけ。＝ 互酬性の顕在化

震災の影響③－細分化

➤ 内一外問題

被害の程度でカテゴリー化と自己規定

- ・ 関西、兵庫県、神戸市、東灘区、本山地区
- ・ 避難所で集落ごとには入れたのは良かった。気兼ねなく自分の苦しさを共有できた。

➤ 置いて行かれ、冷たい視線を

時間が経過するにつれ、取り残された被災者への目は厳しくなる。

- ・ 無料パスを使うと、運転手に嫌味を言われる。人間の尊厳を踏みにじられるような気が…。
- ・ 震災直後、友人の家を転々としている時、「ルンペン扱い」された。
- ・ 「私ら税金払ってしんどい思いしてるのに、仮設の人は出たら支援金はもらえるし、安い家賃で新築の公営に住める。ええなあ」と……。

調査目的と調査概要

- 復興過程を通じて、析出してくる課題や意思決定を制約する条件とを描くことで、復興政策を進める上での留意点や必要な補完的対策を明示する。
- 定期的に同じ集落を対象に、
 - a) 傾向を把握するための選択肢法による定量的調査
 - b) 課題発見のための半構造化法による傾聴調査を組み合わせ、継続調査を行う。

調査地点				
調査数	女川町	亘理町	気仙沼市	南相馬市
442	94	121	108	119
100.0	21.3	27.4	24.4	26.9

傾聴項目

➤(周囲の落ち着き)いつくらいから、どのようなことが変わってきたと思いますか。

e.g. 周囲の人と話していて、笑顔が見えた時
仮設に入って少し落ち着いた。

娘と喧嘩して仲直りする。日常が戻ってきたと感じる。

➤(周囲の人とのつきあい)どのような変化がありましたか。

➤(自宅再建の問題)具体的にどのようなことですか。

➤今の仕事・収入の状況について、不満や問題がありますか

e.g. 海で仕事をしたいのに、働き口がなく、仕事ができない状況
(人を)募集はしているが、若い人は外にでていく。

仕事を見つける足がかりとして、お弁当作りをしている。

➤将来のご自身の生活について、どのようになれば落ち着いたと感じるでしょうか。

➤この地域の復興について、自治体が行なう施策など、どのようなことが必要だと思いますか。

➤(津波対策)大事だと思うことはありますか。

いま、地域の雰囲気はどのような状況ですか。

■ 変わらない □ 少し落ち着いてきた ■ 落ち着いてきた

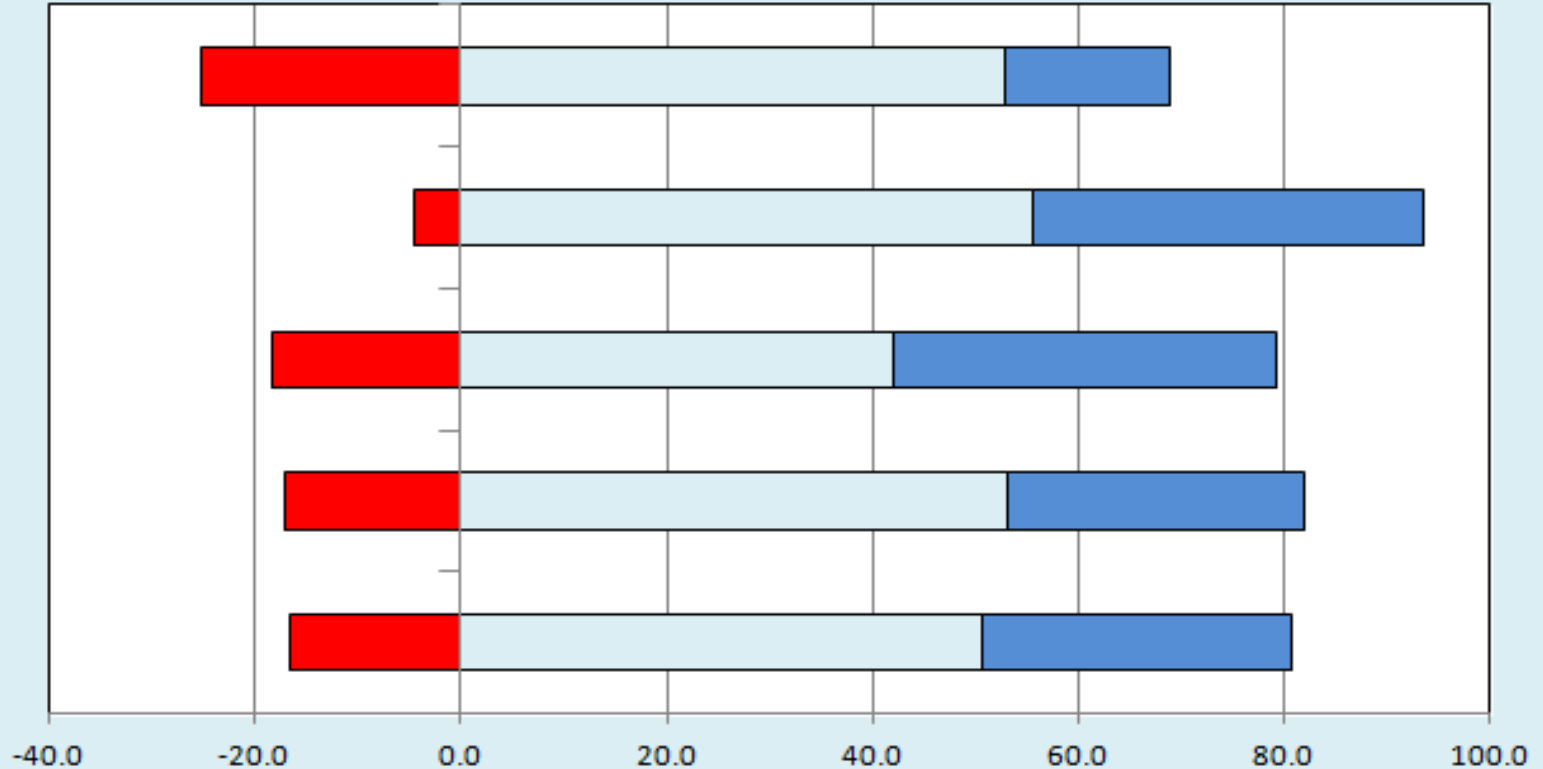
南相馬市

気仙沼市

亘理町

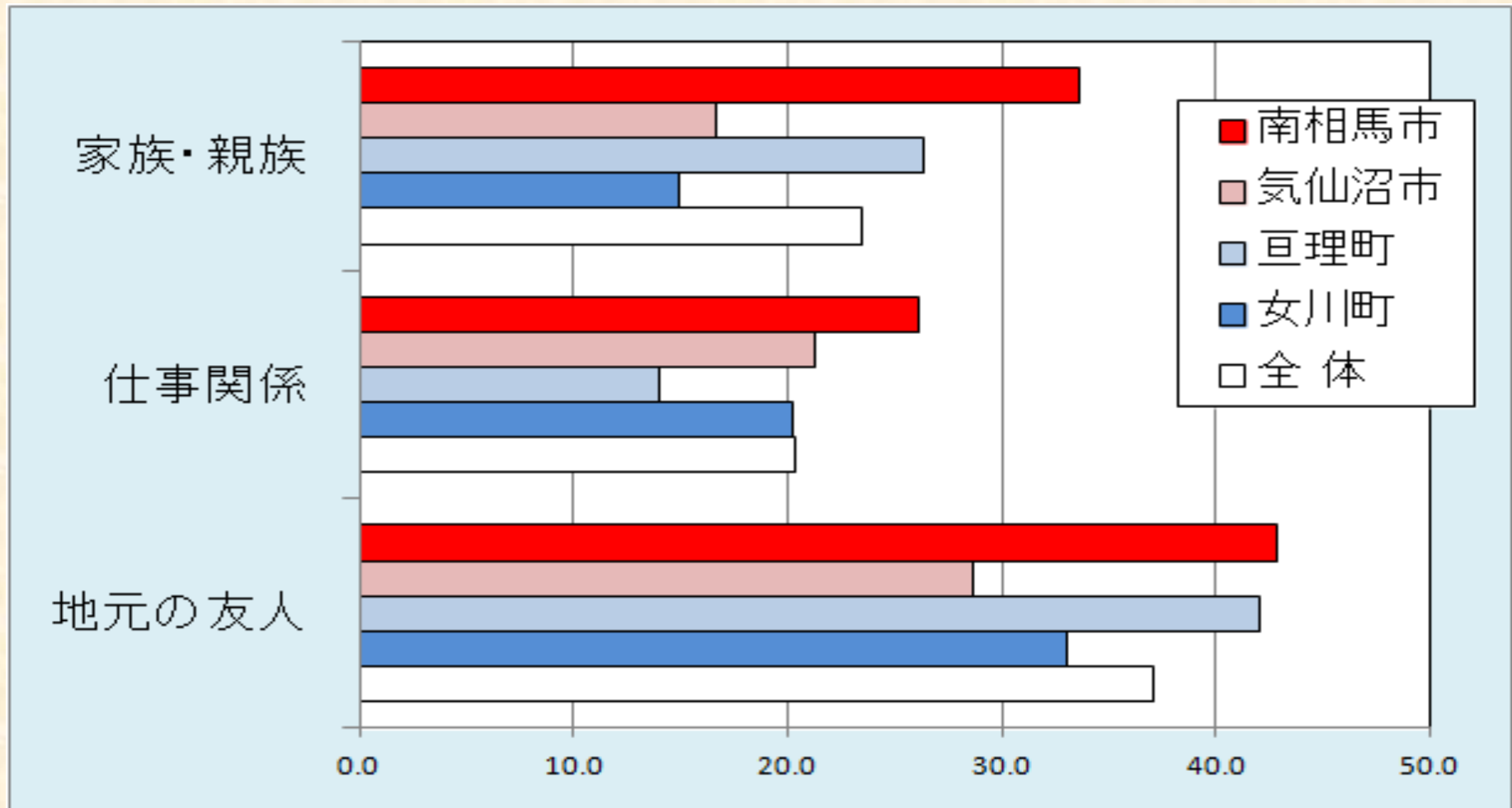
女川町

全 体



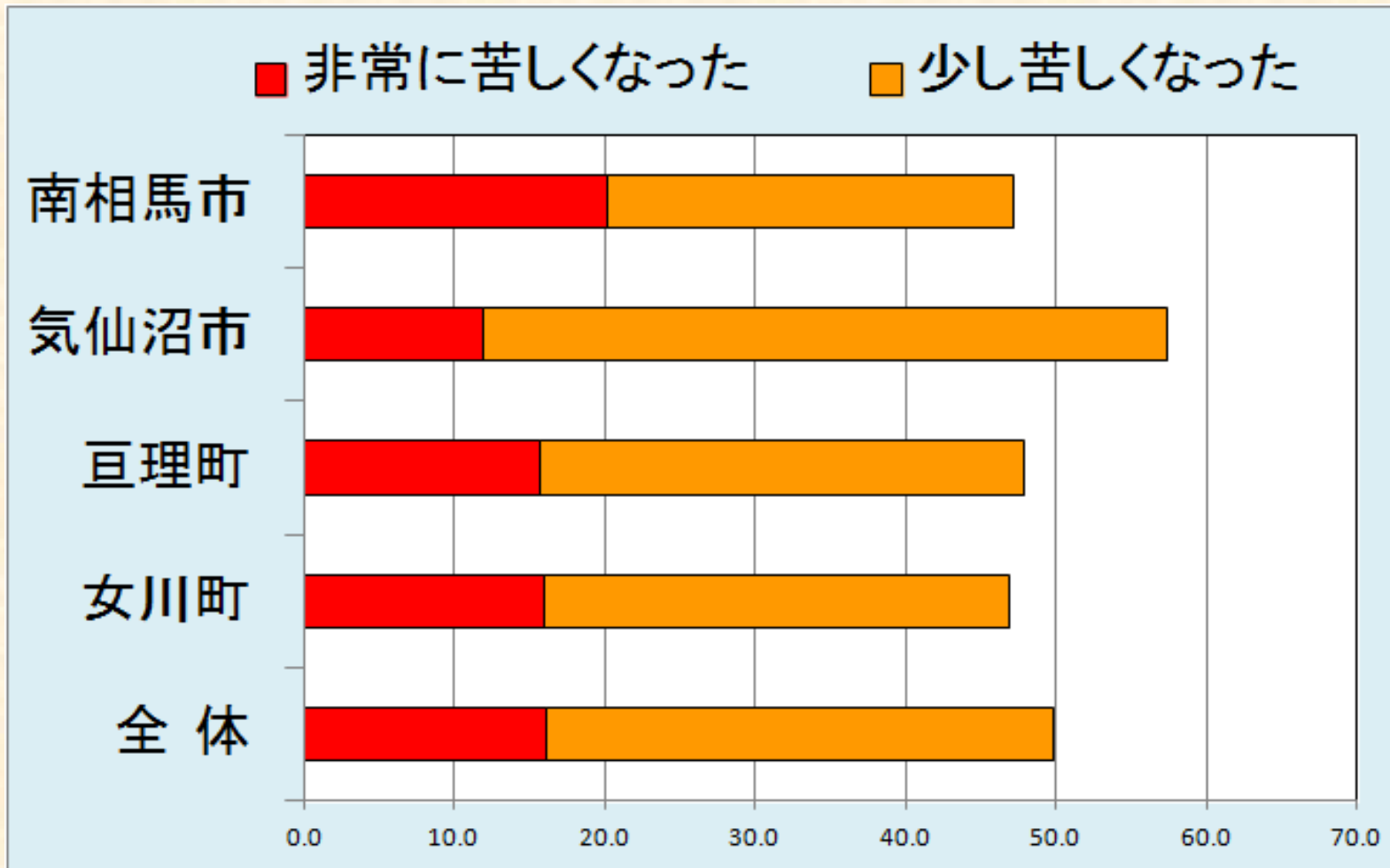
南相馬市では、「落ち着いた」という人は少ない。
気仙沼市の対象地域が、一番進んでいる。

まわりの人とのつきあいに変化がありましたか



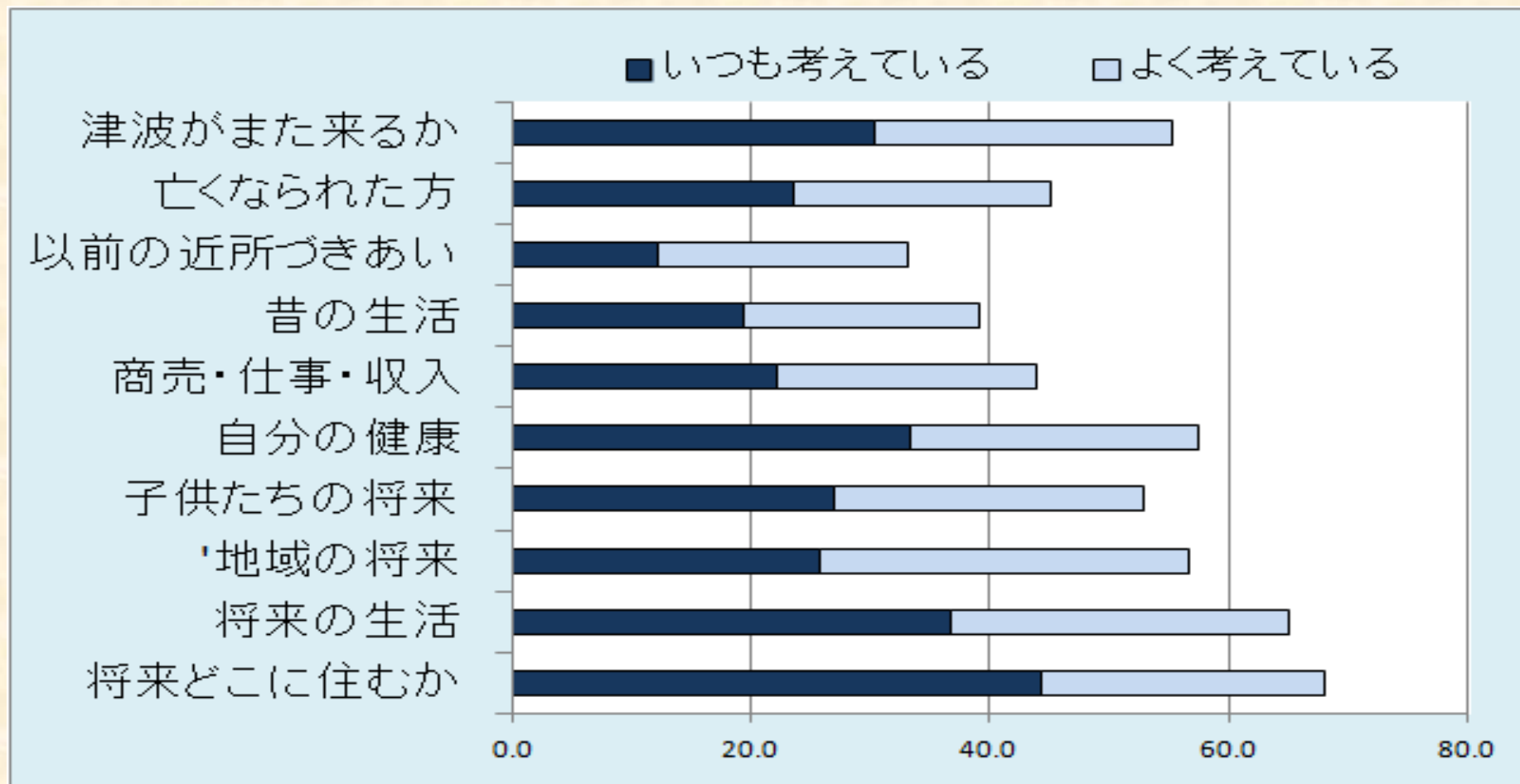
地元の友人との付き合いが減ったと感じている。
家族と地元の友人を中心に、南相馬と亘理で高い。

お宅の生活(家計)は、震災前にくらべて



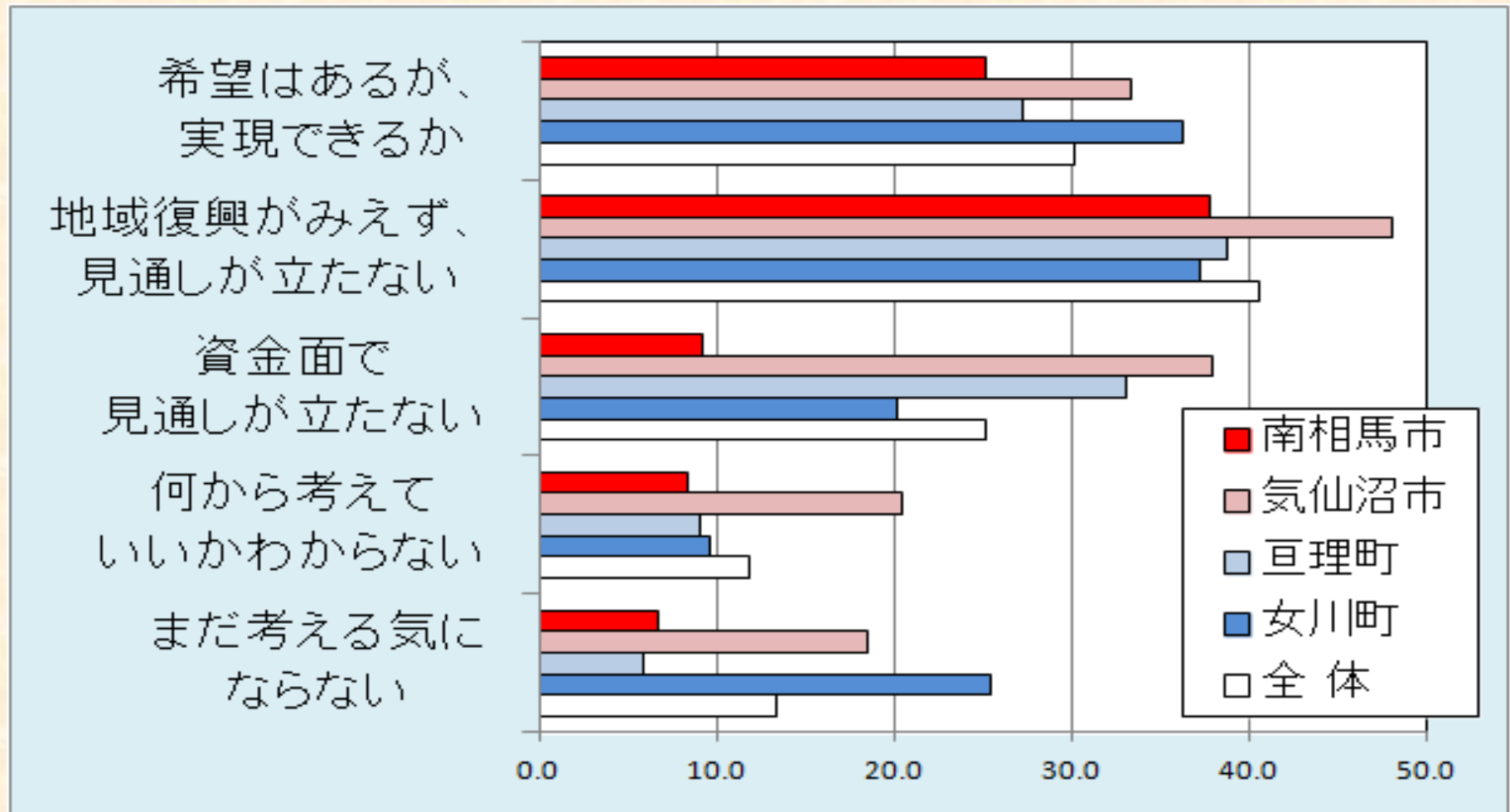
全体で16.1%が「非常に苦しくなった」。
「少し苦しくなった」と合わせると49.8%。

現在、どのようなことを考えますか



将来どこに住むか？ 将来の生活は？
地域と子供たちの将来を考えつつ、短期に決断。

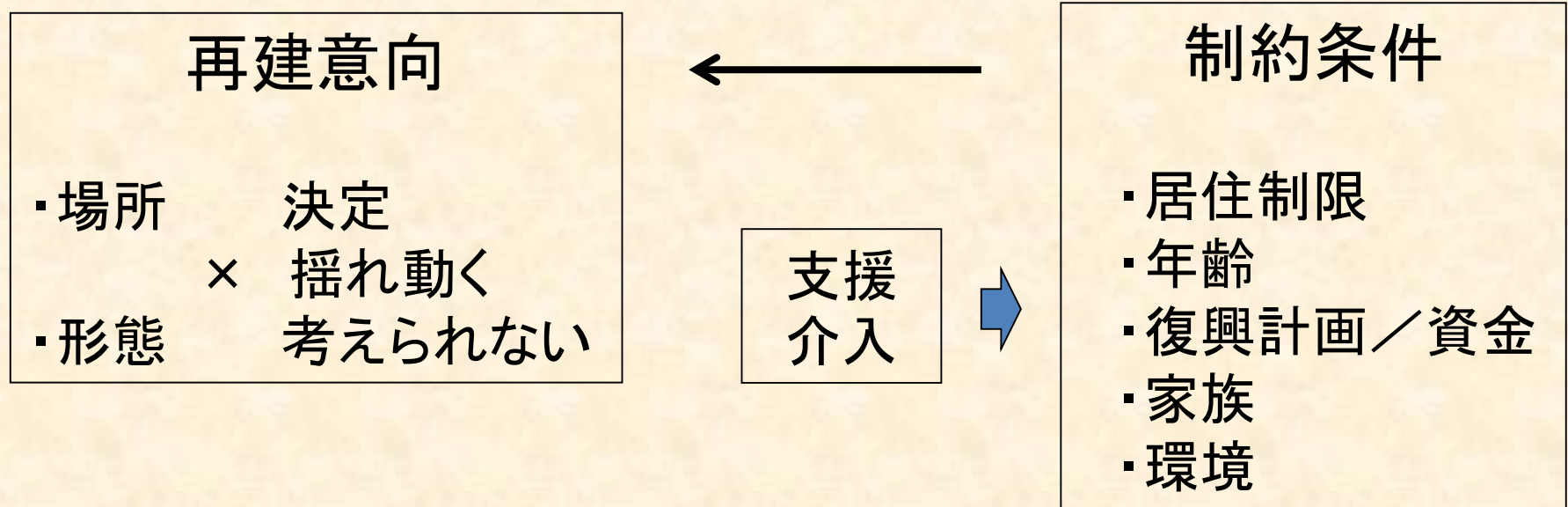
自宅を再建する上で、どのような問題がありますか



ここでも、地域復興の重要性：

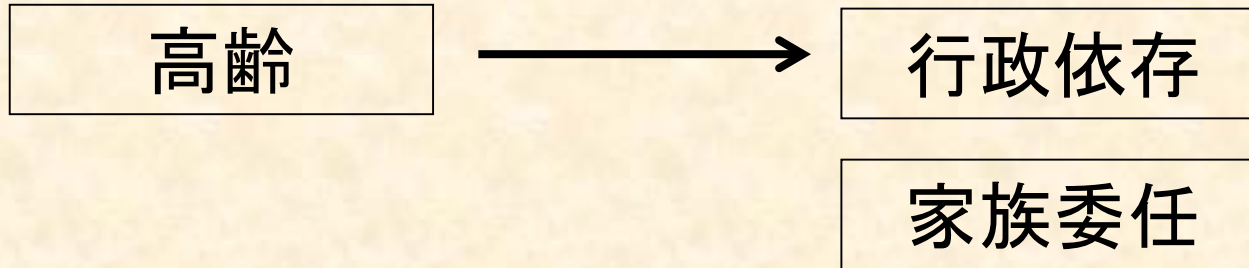
⇒ 自己決定権の制約と自己決定の社会性の認識

質的分析に見るマクロ構造



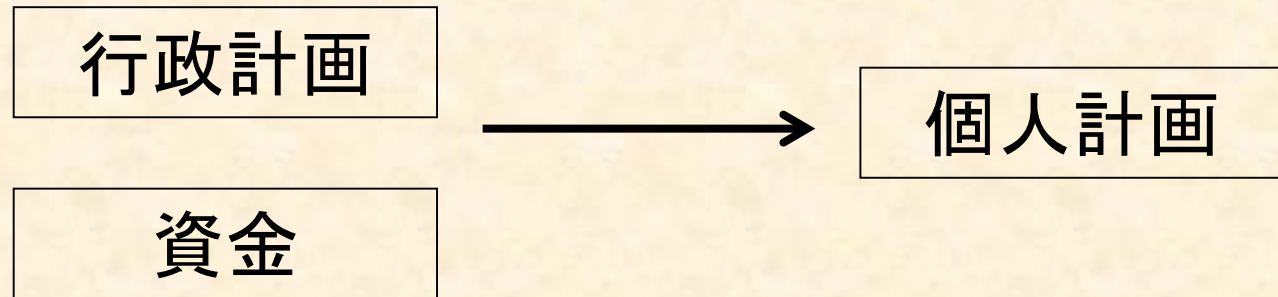
- ・仮設から出ていく人がいると少し焦りがある。
 - ・なかなか進まなく、気持ちが折れそう。
 - ・なるべく早く住みたい。そればかり考えている。
 - ・ちょっと何と言ったらいいか言葉にならない。
 - ・焦りの中で、自分に、家族に、地域に重要な意思決定を。
- ⇒ 被災に収斂

「物語1」: 年金ぐらしなので再建は無理だと思う。公営住宅の家賃だけで生活したいと思う。



- ・高齢で、どう考えていいかわからない。息子に頼るしかない。
- ・被災者住宅に住みたいが、まだ建っていないし、建つかどうかも分からない。もし建たなかった場合は息子の家に世話になるが、あまり迷惑をかけたくない。
- ・市の復興アンケートには、復興住宅への希望を示したが、どうなるのかは、何も決まってない
- ・現実として年齢的にお金を借りることもできない
- ・(自宅を)建てたとしても、自分たちの年には間に合わない。
- ・家を建てても跡取りがいらない。

「物語2」: 希望の場所などはあるが、資金の問題もあるし、土地のことは、こんど市の計画によるので見通し立たない



- ・土地がどこになるか決まっていない。まずそこが決まらないと何も動くことが出来ないから。
- ・町の方では計画が上がっているが、まだ山を崩すのも始まっていない。始まれば、ここがいい、あそこがいいと、希望は出てくるだろうが、今のところ具体的な希望も見えていない。
- ・土地と広さと金額のバランスが難しい。畑も移転するので、そちらの資金の問題もある。
- ・今は復興計画の建設候補地と必要資金の決定待ち。
- ・行政から、いつ戻れるか等の説明がなく、現在どのような状態なのかが分からない。除染の進行具合も見えてこない。

「物語3」: 資金面の問題は大きい。東電からの賠償が決定しない限り、前向きに再建を考えられない

行政計画



個人計画

個人の資金

- ・ 集団移転先の土地の造成、被災土地の買い取りについて具体的な話がまだないのでそれが分からないと先へ進めない
- ・ 町で買い取ってくれるのか、別の土地と交換になるのか
- ・ 家を新しく建てたいが、具体的なものが何1つ分からない。資金面、土地の買い上げ価格を早く決めてほしい。これが決まらないとスタートできない。先がけしてしまっているのか非常に不安。
- ・ 補償問題が、決まってない。除染がいつ迄かかるか。この事で戻れない。
- ・ 前の家は住宅ローンが残っており、家の修理費＋ローン＋その他でこの先どうしたらいいか分からない。

「物語4」: 地域に家が1軒も無いので、自宅の再建が出来ない。

生活環境



個人計画

地域再建

- ・公共交通は、最も力を入れてほしい。特に鉄道と高速道路について、南北・東西の連絡ができるようにしてほしい。交通アクセスが悪すぎて、避難した人たちの帰還にも影響している。
- ・岩沼が便利で総合病院もあるので住みたいと考えているが、資金面で厳しい。
- ・病院や福祉の整備をしてもらわないと元の家に戻れない。
- ・自宅の周りの防波堤がいつ整備されるか分からない。ただ、その見込みがないまま再建してまた津波でやられるということだけは避けたい。
- ・戻ってくる旧住民がいるかどうかで数が決まる。

「物語5」: 嫁、孫と一緒に住みたいと思うからわからないから見通しが立たない。みんな同じような環境を抱えている。

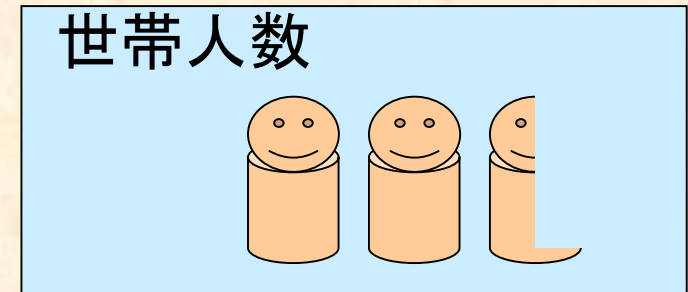
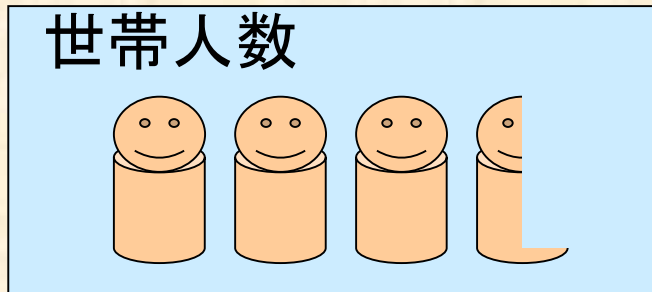
家族内



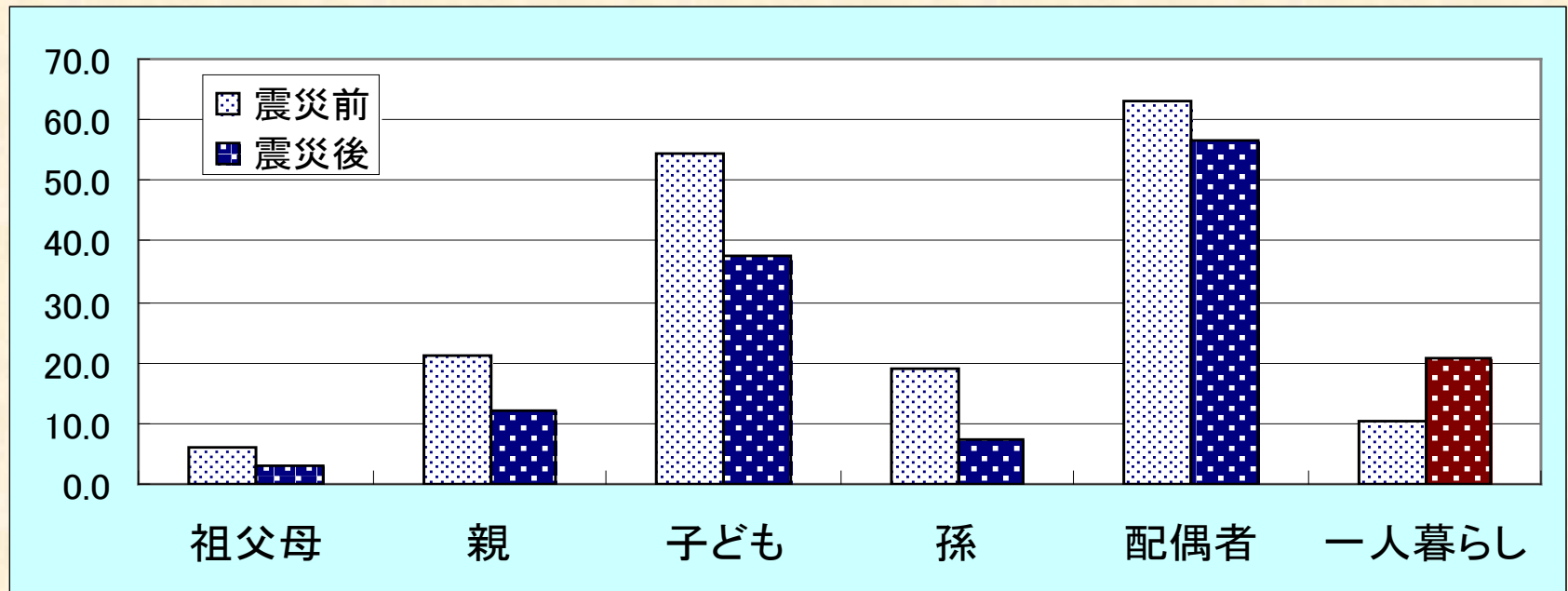
個人計画

- ・心理的に、家族がバラバラ。今までは3世代同居はあたり前だったが、原発事故により、バラバラになり、今、改らたに。
- ・親族間での財産相続問題が解決しないと、何も進められない。
- ・息子が地元には戻るつもりがなく、岩沼の方で土地を購入した。移住が決まっているが、自分は慣れた土地が良いので、本音は行きたくないと思っている。やはり年を取ると、知らない土地に不安がある
- ・孫も同居していたのに、避難して帰ってこない。主人が区長なので、逃げられない
- ・津波のこともあるため、昔いた場所には戻りたくない。ご主人が漁業に勤めているため、家は海の近くがいいと思っている。

家族構成



子どもや孫と離れた人が増えている。



災害から見たつながり

- 災害は、新たなつながりを生む。
- しかし、その一方で分断ももたらす。
 - 喪失
 - 自己コントロール感の剥奪・依存感
 - 自己規定・他者規定
 - 互酬性の顕在化
- いつもの「つながり」を考える上での視点。
 - 他者からも自らも災害からのみ規定される自己
 - 互酬性への期待